

小林可夢偉と小林利徠斗が新加入。
テストから課題だったスピード面を改善したが、
開幕大会は2台とも悔しい結果に終わる。



2026年全日本スーパーフォーミュラ選手権 Round1・2「MOTEGI 2&4 RACE」が4月4日(土)・5日(日)にモビリティリゾートもてぎで行われた。参戦2年目となるKDDI TGMGP TGR-DCは、経験豊富な小林可夢偉(こばやし かむい)と、昨年のスーパーフォーミュラ・ライツ年間3位の小林利徠斗(こばやし りくと)を起用。前年を上回る結果を目指していく。雨模様のRound1では2台とも接触を受けて後方に下がる結果となったが、Round2では小林可夢偉が好ペースを發揮。結果は12位とポイント獲得はなかったが、今後の期待が膨らむ速さをみせた。

RESULTS

Round 1
予選 - 決勝 DNF

Round 2
予選 17位 決勝 12位

Rd. 1	Rd. 2
QUALIFYING 1	
- (A Gr) 1'40.995	P9(B Gr) 1'31.977
QUALIFYING 2	
-	-
RACE	
DNF / 2'29.558	P12 / 1'31.967

7 小林 可夢偉 | KAMUI KOBAYASHI
KDDI TGMGP TGR-DC

RESULTS

Round 1
予選 16位 決勝 18位

Round 2
予選 16位 決勝 DNF

Rd. 1	Rd. 2
QUALIFYING 1	
P9(B Gr) 1'30.928	P8(A Gr) 1'31.886
QUALIFYING 2	
-	-
RACE	
P18 / 2'10.244	DNF / 1'50.899

28 小林 利徠斗 | RIKUTO KOBAYASHI
KDDI TGMGP TGR-DC

Rd. 1 **QUALIFYING** 天候:曇り | 気温:13℃ | 路面温度:17℃ **RACE** 天候:雨 | 気温:13℃ | 路面温度:15℃

開幕の舞台となったモビリティリゾートもてぎは、シーズンオフ中に路面の舗装が全面的に新しくなり、金曜日に2回行われたフリー走行で状態を確認しながら、マシンのセットアップを進めていった。

4日(土)朝の公式予選では、小林可夢偉がAグループで出走。前日のフリー走行ではQ2進出も狙えるタイムを記録していたが、新しい路面が持つ特性と低い気温も影響して、ペースを上げることができずQ1敗退。続くBグループに登場した小林利徠斗も、Q2進出を目指して懸命なアタックを披露したが、1分30秒928のベストタイムで9番手。Q1敗退となった。

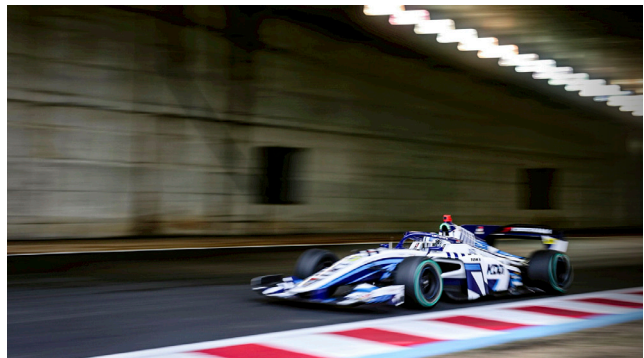
午後の決勝レースは雨模様となりセーフティカー先導でスタートしたが、雨量が多いことから3周目に赤旗が出され、約1時間にわたって中断。再開後もセーフティカー先導の状態が続いた。そのなかで16周目にグリーンフラッグが振られたが、小林可夢偉は他車から接触を受けてスピンを喫してリタイア。小林利徠斗もポジションをキープしていたが、こちらも他車からの接触でポジションを下げ18位でレースを終えた。



Rd. 2 **QUALIFYING** 天候:曇り | 気温:20℃ | 路面温度:31℃ **RACE** 天候:曇り | 気温:22℃ | 路面温度:28℃

前日から降り続いた雨は止んだが、コースのところどころに水溜りが残っている状態で始まったRound2の予選。2台ともRound1予選での課題を改善につなげ、上位とのタイム差を縮める走りを見せる。なかでもAグループの小林利徠斗はトップから0.5秒差となる1分31秒886を記録したが、ライバルも手強く、わずか0.05秒差でQ2進出ならず8番手に終わった。続くBグループには小林可夢偉が出走。前日の反省点を活かした戦略で臨んだが、逆にタイヤがオーバーヒートしてタイムを思うように更新できず、9番手で敗退となった。

ドライコンディションで行われた決勝レース。16番グリッドからスタートした小林利徠斗は、前方でのアクシデントを避けるかたちでコースオフを喫してポジションを下げると、2周目のビクトリーコーナーで突然マシンの挙動が乱れてスピン。グラベルエリアにマシンを止めてリタイアとなった。小林可夢偉は17番グリッドから順調なペースで周回を重ねて28周目にピットイン。ライバルの逆転に成功するも、ポイント圏内には届かず、12位となった。





Driver
小林可夢偉

予選に関してはRound1でタイヤが発動せずに終わってしまったので、その対策をしてRound2に挑みましたが、今度は逆にオーバーヒート気味になって、満足のいくタイムを出すことができませんでした。レースに関してはポジションは悪かったですけど、普通に戦えてポイントが獲れそうなところを走っていました。本来なら最終盤にピットインする予定でしたが、少し気が焦って早めにピットストップをしたことでポイント圏外でのチェッカーとなりました。非常に悔しいですが、ポテンシャルはあると思います。次戦は予選から戦えるクルマを作りたいです。



Driver
小林 利徠斗

Round2の予選はウォームアップの段階から良い感じでした。アタック自体はしっかりまとまったと思いますが、僅差でQ2に行けませんでした。走っていた場所がもう少し違うところであれば、Q2に行けたかもしれません。まずは良い走りをしなればと思っていたので、そこに関しては良かったです。決勝は1周目の混乱を避けるためにコースアウトしたことで順位を落としてしまいました。気を取り直して追いつけようと思いましたが、2周目のビクトリーコーナーで突然リヤが滑り始めてスピンしました。悔しい結果に終わりましたが、そこまでの過程では良かったところもあるので、しっかりと見直したいです。



Team Director
片岡 龍也

予選でのパフォーマンスが、2日間ともコンディションに対して裏目に出るところがありました。特に可夢偉選手に関してはRound1でタイヤが温まらず、逆にRound2では若干オーバーヒートして両日ともクルマのパフォーマンスを最大限出せないアタックでした。Round2決勝の可夢偉選手は4位から5位には入れるパフォーマンスがありましたが、良かれと思って早めにピットインしたことが裏目に出ました。いずれにしても可夢偉選手が来てくれたことで、チーム全体のクルマへの理解度や目指す方向性も見えてきたので、オートポリスでは今回よりレベルを上げたいです。利徠斗選手は経験不足なところが出ましたが、この悔しさをバネにしてしっかり成長してもらいたいです。

